【添付資料】第 22 回（2022 年）「YKK ファスニングアワード」グランプリ受賞者コメント

第 22 回(2022 年)は、アパレル部門　松井 基拡（マツイ モトヒロ）さん（名古屋モード学園）、ファッショングッズ部門 鄭 振甫（テイ シンフ）さん（文化服装学院）がグランプリに輝きました。鄭（テイ）さんは、本コンテスト開始以来初 2 年連続のグランプリ受賞です。受賞作品に対する想いを紹介します。

【アパレル部門】　松井（マツイ） 基拡（モトヒロ）さん（名古屋モード学園）

円をファスナーで繋ぐことで生まれる機能と造形を追求し、取り外すことで日本の伝統美である借景を表現しました。最も意識したのは、ファスナーをどう使うかということ。そして日常的にも着られて、衣装映えもするデザインを心掛けました。使用した EVERBRIGHT®（エバーブライト）は、ファスナー自体に美しさがあるので、作品全体としては派手になりすぎないように、テキスタイル選びはクセのあるものからベーシックなものまで、多くのプリントを試行錯誤してこの作品にたどり着きました。こだわったのはスカートのウエスト部分の小さい円パーツで、生地が立体的に見えるようにしました。その部分の縫製がとにかく大変で、よれた箇所をアイロンで直しながら、グラフィックの見え方も追求していきました。EVERBRIGHT®（エバーブライト） はデザイン画の段階から大人っぽいエレガントなイメージに合うと思って使用を決めていて、タックボタンは取り外しても変化をつけられることが魅力に感じました。将来は自分のブランドを立ち上げ、外見的な主張よりも知的で内側に芯があるような人に向けた服を作りたいです。

【ファッショングッズ部門】　鄭（テイ） 振甫（シンフ）さん（文化服装学院）

モチーフであったり、クリエイティビティーであったり、去年とは違うアプローチも取り入れながらチャレンジしたいと思って今年は応募しました。そこも評価していただけて嬉しく思います。外見だけでなく、構造にもこだわり、中身の美しさを表現するとともに、内側から全体をどのように支えるかが重要だという思いを作品に込めました。苦労したのは透明なビニールを縫っていく作業で、通常の作業の 2～3 倍の手間がかかり、糸のチョイスなども含めて多くの時間を費やしました。タックボタンは新しい可能性を探ってみたいと考え、ビニールを被せることで留め具として使えるようにしました。METALUXE®（メタルックス） Tough（タフ）は軽くてタフなのでバッグにとても使いやすかったです。物作りが好きなので、これからもデザイナーを目指して頑張ります。自分の世界観を伝えて、驚きや感動を与えられるようなデザインを続けていきたいです。

（取材協力：　繊研新聞社）

以上